

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2013年3月19日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



## 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.13 <講師研修に力を注ごう!>

新年度を迎えようとしています。生徒だけでなく、スタッフも新しく入れ替わる時期ですね。新しく塾講師としてデビューする学生の方々が全国にたくさんいることと思います。

そこで、今回は、講師研修について考えてみます。

「講師の戦力アップ＝教室の指導力アップ」ですからね!

私どものコンサルは、専任職員を対象にした職員研修のみならず、学生講師・時間講師の方を対象にして講師研修も行っております。それこそ、これまで教え切れないほどの講師研修も実施してまいりました。

余談ですが、講師研修に行くと、参加者の研修姿勢からその塾(教室)の活力がよく分かります。室長と講師の関係が、研修の中で垣間見えるからです。この教室は伸びるだろうとか、この教室は苦戦しているな、ということが手に取るように分かるのです。優秀な室長は、生徒だけでなく、講師の先生方にもエネルギーを日々注入して、校舎運営をしているのです。

さて、話を戻して講師研修です。

まず、伝えたいのが、講師研修は禁止事項の羅列で終わってはいけないということです。「これをしてはいけない」ということを徹底する前に、「こういうことをするのが講師だ」という行動原理を教えることのほうが大切です。

講師が自主的な判断をしても、問題が起こらないようにするのが研修です。まず、このことを前提とします。講師を自分の都合の良いように動かすための研修ではなく、あくまで、講師が自主的な判断をしても、他塾に負けない指導ができ、適切な対応が出来るようにするためのものなのです。

そのために、研修参加者のモチベーションのボタン(何に動機付けられるのか)を意識する必要があります。

研修では、学生講師が中心であることが多いと思います。そういう場合には、社会に出てからこの講師というアルバイトがどう役立つかを教える必要があります。

たとえば、授業をはじめとして、こんなにコミュニケーションを行うアルバイトはあまりない。これは、「コミュニケーション力」が重視される現代社会において、君たちが社会に出てから良い経験になるから、授業以外でも積極的に自分から生徒へ働きかけてみよう、といった具合に、話を進行させます。「行動する意味」と「具体的な行動パターン」を伝えながら、日々の自分の行動を自覚させるのです。

こういう研修が、実は、講師管理に非常に影響するのです。管理先行型だと、学生講師は、受身になって、室長の指示を待つ依存度の高い講師になってしまいます。研修で、行動原理を教え、各自が自分の判断で行動をしても良いと促すことで、学生講師は、自律度を高め、活気ある行動を取ってくれるのです。

それでは、講師研修のプログラム例を挙げてみましょう。弊社が行う講師研修の一例です。

1. **教育定義。「教育プロセス＝態度変容プロセス」ということを伝える。**  
 指導を通じて、生徒を変化させる。例えば、「生徒が元気になった」という小さなことも態度変容である。
2. **教えることと学ぶことの権力関係を教える。**  
 生徒のほうが教師よりも強い立場にある。生徒の学ぶ合意を講師は取り付けられない限り、生徒は、講師から学ばないという本質を教える。
3. **コミュニケーションの本質を教える。**  
 同じ情報を発信しても、その情報を受け取る受け手の側にすべてが委ねられているという事実をワークショップから理解させる。
4. **承認の仕方を教える。**  
 存在承認・成果承認・未来承認という三つの承認を伝え、「良いところ探し」などのワークショップを行う。
5. **ケーススタディ。**  
 代表的な生徒の問題事例を取り挙げて、各講師で意見交換し、行動例をアドバイスする。

講師研修は、いつでも講師の身近なことを例にして考えさせ、未知の何かを提供することが大切です。「講師研修に行かなくては自分の人間力が高まらない」と講師に思ってもらうことが、実は講師研修の目的です。そのことを意識して、講師研修を企画してはいかがでしょうか。

最後に、あなたの教室で働いている講師は元気でしょうか。活き活き働いて、自主的な判断をしているのでしょうか。その前提を研修で作ることを企ててみたらどうでしょう。講師を信用してみたらどうでしょう。そのためには、室長自らが、講師を知ること、会話をすることが非常に大切なのです。

**【あとがき】**

新年度です。さまざまな目標を持って、新しい気持ちで教室運営をしようと思っていらっしゃる先生も多いと思います。弊社では、そんな先生を応援する会員制度がございます。MBA学習塾サポート会員です。是非、お問合せ下さい。

<http://www.management-brain.com/support.pdf>



はじめまして。

わたくしたちは公立中高一貫校対策センターと申します。当センターは、中央教育研究所様を通じて公立中高一貫校受検対策用の模試(一貫模試)やテキストを先生方へお届けしております。そのご縁により、今号より公立中高一貫校の現状の傾向分析や対策などについて先生方に有益な情報をお届けすることとなりました。よろしくお願い申し上げます。

先生方は、「なんやー、テストや教材の宣伝か?」と思われるそうですね。本音を申し上げれば、もちろんその気持ちもあります。しかし、本メールマガジンの寄稿にあたっては、それが目的でもねらいでもありません。また、公立中高一貫校がない地域の先生方にはまったく関係のない話でもありません。中学入試や高校入試、大学入試の世界では今、公立中高一貫校が出題する適性検査に似た問題が出題され始めています。高校入試から一例を挙げましょう。

神奈川県では、2013年入試より通常の5教科型の入試に加えて、新たに「特色検査」なる入試が始まりました。この入試はまさに「公立中高一貫校の高校入試版」と呼べるものです。また、入試制度として適性検査型を導入してなくても、全国的に「知識だけでは解けない高校入試問題」が徐々に増えてきています。

兵庫県立高校入試ではあみだくじを用いた数式の問題が、徳島県立高校入試では視力検査に用いる「ランドルト環」をネタにした数学の問題が、和歌山県立高校入試ではフィボナッチ数列に関する問題が…というように、おおそ一昔前では考えられないような出題が目立っているのは、先生方もお気づきかと思えます。

今回、本稿のご提案を頂いた中央教育研究所様からも、「公立中高一貫校が出題する適性検査問題は今後、中学・高校・大学入試のすべてに影響を与えてくると思っています。したがって、公立中高一貫校の現状傾向分析や対策を先生方にお伝えし、すべての塾様の指導の一助にして頂きたいのです。」というお言葉がありました。

わたくしたちは、公立中高一貫校受検対策用の模試(一貫模試)やテキストを制作する仕事上、公立中高一貫校は

もとより、私国立中学入試、高校入試、大学入試のあらゆる問題をチェックし、最新の入試傾向の把握に努めておりますので、わたくしたちも本稿がまさにそうなることを確信している次第です。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、早速、本題に入りたいと思います。

今回は適性検査の特徴(その1)と題して序章をお話します。

公立中高一貫校の適性検査問題において、その最大の特徴を挙げるとすれば、「論述問題の多さ」ということになるでしょう。国公立大学の入試ではあたりまえになっている設問形式ですが、それが小学6年生にまで求められるようになっているのです。

では、以前は中学入試で論述の問題がなかったのかと問われれば、そうではありません。最難関私立中学入試では以前から当然のごとく出題されてきました。

「右図(省略)は99年後に誕生する予定のネコ型ロボット『ドラえもん』です。この『ドラえもん』がすぐれた技術で作られていても、生物として認められることはありません。それはなぜですか。理由を書きなさい。」

『『現代は、メッセージを発信したり受けとったりする上で、もっとも便利な時代になったようにもみえますが、もっとも困難な時代であるのかもしれない。』とありますが、なぜ困難な時代だと考えられるのでしょうか。インターネットの特徴を考えて、具体的にどのようなことが起きているのかを140字以上180字以内で説明し、困難さを明らかにしなさい。』

この2題は、ともに私立麻布中学校(東京都港区)が2013年2月1日に実施した中学入試問題の抜粋です。

学校側は、東京新聞の取材に「学校として問題の解答や意図の解説は一切しません。暗記内容を問うのではなく、考えさせる出題は毎年しています。今回もその一環です。」とコメントしています(2013年2月12日東京新聞夕刊)。

「考えさせる問題」とは、言い換えれば「考えることのできる生徒がほしい」という学校側のメッセージです。

(次回へ続く)

英語塾から進学塾・予備校として株式公開も果たした、川崎市に本部を置く「城南予備校」の個別指導部門が「城南コベッツ」です。2003年からスタートして、2006年からは独自のノウハウをベースにFC展開も開始しています。

### ■「+25点保証システム」

城南コベッツでは、定期テスト「+25点保証システム」により、生徒のモチベーションを高めつつ、保護者の不安解消に努めています。塾や予備校に通わせて子供の成績が上がるのかどうか不安でない親はいません。そこで、城南コベッツでは、「いつ、なにを、どんなふうによればいいのか」「学校の授業がわからなかったらどうしたらよいか」「わかっているのにテストの成績がよくない」といった問題を解決しながら生徒一人ひとりをきめ細やかにフォローします。

講師一人に生徒二人までの個別授業体制と、教科書対応の家庭でできるインターネット学習「城南マナビックス」で、塾での学習と家庭学習をトータルにサポートしています。

「プラス25点習得プログラム」により、定期テストで25点以上の得点アップが図れるのだそうです。

### ■インターネットと塾のバランス良い活用

「城南マナビックス」では、家庭でインターネット学習がスムーズにできるようになっています。学校の授業に合わせて進められる学習システムで、学校の授業を先取りし、学校での理解度が一気に高まります。それによって、問題ができて自信がつき、さらに城南コベッツでレベル別の「教科書別対応テキスト」で苦手を克服し、定期テスト前には「学校別予想問題集」で直前診断を実施、この診断結果に基づいた生徒一人ひとりの「個人別テスト対策問題集」を準備します。

### ■個別指導の直営とFC展開を加速中・・・

「城南コベッツ」を運営する本体、城南進学研究社では現在、首都圏を中心に予備校10校舎、個別指導174教室、大学合格保証個別指導1校舎、映像授業校舎5校舎、乳幼児教室2教室、認証保育所1園、就職支援スクール1教室を運営しており、特にここ数年は個別指導のFC展開を加速させており、直営とFCの両方が増えています。

# 脇役の研究 第十二回 「草刈正雄 ガラスのmant」

今回は、「永遠の二枚目」と言われる草刈正雄です。モデルで青春スターだった彼も昨年還暦を越えましたが、未だにスラリとした贅肉のないスタイルと甘い語り口は健在です。生まれ育った福岡市博多との縁も復活して、悪役で芸域も広がった草刈正雄の「脇役ぶり」について見ていきましょう。

## ■新聞配達と牛乳配達を掛け持ちしながら学校に通う

身長 185cm でハーフの甘いマスクの彼は、1952 年、米軍兵士の父親と日本人の母親から産まれましたが、父親は彼が産まれる前に朝鮮戦争で戦死、母親が女手ひとつで育てたそうです。貧しい家計を助けるため、彼は新聞配達と牛乳配達を掛け持ちして小中学校に通いました。また、本のセールスをしながら定時制高校に通い、軟式野球のピッチャーとして全国大会にも出場したことがあります。もし、プロ野球のスカウトの目に留まったら、どこかの球団でプロの野球選手になっていたかもしれません。

## ■モデルから俳優へ・・・

彼を見いだしたのは博多のバーのマスターでした。ひょんなことから知り合った人に「福岡市で今度ファッションショーがあるから観にいけよ」と言われて観に行った際にスカウトされたのです。

高校を中退して 17 歳で上京し、1970 年に資生堂専属モデルとして MG5 の団次郎の弟分としてデビュー、瞬間に売れっ子モデルの階段を登りはじめました。そして、二年余のモデル時代を経て、野中マリ子の俳優養成所「野中塾」で演技を学び俳優に転向します。

1974 年の映画「卑弥呼」でデビュー、いきなり岩下志麻の弟役に抜擢されました。続いて新撰組の沖田総司という彼のキャラクターを決定づける作品と出会いましたが、「長身のイケメン」「目元涼しい正義の味方」というイメージが中高年からの俳優稼業に少しマイナスに働き、芸域を広げるためにかなり苦労をしたようです。

## ■悪役もできる演技派に変身

彼が見事にイケメン俳優から脱皮したのは、NHK 大河ドラマ「花の乱」の日野勝光役でした。一癖も二癖もあるイヤらしい公家役を怪演し、かつての成田三樹夫を彷彿とさせる役作りで、

一気にイメチェンに成功したのです。このあと彼に様々な役どころが舞い込んだのは言うまでもありません。

そういえば、日活のスターだった穴戸錠は、「エースのジョー」などと呼ばれていい気になっているうちに、どんどん主役を奪われて・・・ある日「決断」をしたのを思い出しました。ほつぺたを切り刻んで綿を入れ、怖い顔のやくざとして役作りだけでなく「顔づくり」も自分でしてしまったのです。役者はある時から、たとえば「美男子のイメージ」から脱却するために「死んだほうがマシ」なくらい厳しい試練を乗り越えなければならぬのです。主役から脇役への転身、それは自らの立ち位置を下げるわけですから、屈辱でないわけがありません。しかし、それをしなければ生き残れないのが芸能界というものなのです。

## ■セリフが皆無の台本「風の又三郎 ガラスのmant」

彼がある日マネージャーから受け取ったのは、宮沢賢治原作の映画「風の又三郎 ガラスのmant」でした。

「ああ、いつものように姿勢のよい父親役かな・・・」

そんなことを思って自宅で台本を開いた彼の目はみるみる大きく見開かれていきました・・・そこには彼のセリフは一つも無かったからです。

「こ、これはどういうことだ。セリフ無しで、何で演技すればいいんだ?」

彼は一晩悩んで、翌日俳優仲間「セリフの全く無い役がきちゃったよ」と言いました。

「それはそれでいいな。新しい世界が開拓できるかもしれん。言葉を無くしたらどうやって表現するか、俺も考えたことがある。いつか俺にそんな役がくればよいのに・・・とっていたら、お前さんにきたのか。まったく羨ましいなあ」

俳優仲間は草刈を励ますために、意識してそう言ったのかもしれませんが、草刈は感動しました。自分がそのような特別な役に巡り会った事にも感謝したのです。

そして映画は「文部省特撰」の指定を受け、全国の多くの子供たちや大人に鑑賞される作品となり、彼の代表作ともなったのです。ちなみに、この作品がとても印象に残るのは全編に流れる素敵な音楽が影響していますが、これは富田勲氏の作曲によるものです。さあ観たくなったら是非休日前に DVD を借りてきましょう。

それでは・・・またいつか。